

## 畜産酪農サプライチェーンの脱炭素化に向けて 一簡易算定シート算定結果を食品メーカーScope3カテゴリ1へ活用するー

令和8年1月7日  
JA全農 畜産総合対策部

環境省事業

「バリューチェーン全体での脱炭素化推進モデル事業」参加企業・団体（順不同）

 スターゼン

 伊藤ハム yonekyu

 プリマハム

 Nipponham

 全農  
ZEN-NOH

 全農  
ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

# 畜産物を扱う企業によるScope3一次データ利用に向けた考え方

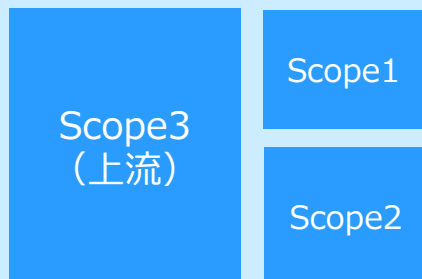
- 近年、畜産物を取り扱う企業でも財務情報と共に非財務情報として温室効果ガスの間接排出量（Scope3）及びその削減策の開示が求められる傾向にある。
- 現状、多くの企業ではScope3カテゴリ1の算定では二次データ（活動量×排出原単位。排出原単位は環境省のデータベース等を活用）が用いられているが、削減努力が反映しにくい構造になっている。
- Scope3一次データには「製品ベース（CFP）」と「組織ベース（Scope1-3）」があるが、「組織ベース」の方が実務面では取り組みやすい。

## 農水省の簡易算定シートの活用可能性のある範囲

### 生産者A



### 生産者B



## 「組織ベース」で排出量を売上/購入金額で配分する考え方

$$\begin{array}{c} \text{あるサプライヤーから購入した} \\ \text{製品に係る排出量} \\ \hline \text{Scope3排出量算定企業の} \\ \text{カテゴリ1の項目} \end{array} = \begin{array}{c} \text{サプライヤーの排出量} \\ \text{(Scope1,2,3)} \\ \text{※Scope3は上流} \\ \hline \text{1次データ} \end{array} \times \frac{\begin{array}{c} \text{当該サプライヤーからの} \\ \text{自社の購入金額} \end{array}}{\begin{array}{c} \text{当該サプライヤーの} \\ \text{総売上高} \end{array}}$$

### 食肉処理場



### 食肉購入者/メーカー



## 簡易算定シートで生産者のScope1-3を算定する。

- 「畜産物バリューチェーンの脱炭素化」には、簡易算定シートのアウトプットとして**生産者のScope1-3**が必要。  
⇒算定結果は食品メーカー・小売業のScope3カテゴリ1の見える化や生産者のSHK制度報告に活用
- 期待される成果：消費者の畜産物生産プロセスへの関心度向上、企業価値向上（非財務情報開示対応）、低炭素商品の価値向上
- その他：企業のScope3対応やSHK制度対応のニーズから算定シートがさらに普及拡大する可能性あり。

